

4. なす

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫前日まで	4回以内	
-	(クロルピクリン) クロピクテープ	土壌くん蒸	-	1回	
	クロールピクリン	土壌くん蒸	-	1回	
M1*	サンヨール	散布	収穫前日まで	4回以内	
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	
M7	バルコート水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
M10	モレスタン水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1+10	ゲッター水和剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
12	セイビアーフロアブル20	散布	収穫前日まで	3回以内	
M7+17	ダイヤモンド	散布	収穫前日まで	3回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫前日まで	4回以内	
19	ポリオキシソールAL水溶剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
2	ロブラール水和剤	散布	収穫前日まで	4回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アーデント水和剤	散布	収穫前日まで	4回以内	
3	アグロスリン水和剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
4	アドマイヤー水和剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
4	アドマイヤー1粒剤	植穴又は株元土壌混和	定植時	1回	
6	アフーム乳剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
20	カネマイトフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
13	コテツフロアブル	散布	収穫前日まで	4回以内	
1	スプラサイド水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
4	ダントツ水溶剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
21	ピラニカEW	散布	収穫前日まで	1回	
1	マラソン乳剤	散布	収穫前日まで	6回以内	
1	マラバッサ乳剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
苗立枯病 (F)	は 種 前	1. 床土消毒の項を参照する。薬剤で消毒する場合は、クロルピクリン剤を用いる。	
萎凋病 (F) 半身萎凋病 (F) 青枯病 (B)	は種、定植前	1. 土壌消毒の項を参照し、対象病害に登録のある薬剤で消毒する。 2. 半身萎凋病、青枯病には、抵抗性台木を接木する。 3. 発病株は抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 罹病苗を本ほに定植しない。 2. 青枯病に対する抵抗性台木は、青枯病菌の系統により抵抗性の程度が異なる。
うどんこ病 (F)	生 育 期 間	1. サンヨール700倍液、アミスター20フロアブル、ジーファイン水和剤の2,000倍液、ベルコート水和剤、モレスタン水和剤の3,000倍液のいずれかを散布する。	1. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。 2. ジーファインは、施設では高温多湿時に散布しない。
灰色かび病 (F)	生 育 期 間	[参考農薬] 1. ダコニール1000の1,000倍液、ゲッター水和剤、セイビアフロアブル20、ロブラール水和剤の1,000~1,500倍液、ダイマジン1,500倍液、ポリオキシソルボン水和剤5,000倍液のいずれかを散布する。	1. 主に施設栽培の多湿条件下で発生するので通風を図る。 2. 同一剤は連用しないで、他系統の剤をローテーション散布する。
ネコブ センチュウ	定 植 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
アブラムシ類	定 植 時	1. シルバーストライプフィルムをマルチする。	1. 定植間もないものに、被害が出やすい。
	生 育 期 間	1. 施設栽培の場合、開口部に防虫ネット(0.8mm目合い)で被覆する。 2. マラソン乳剤2,000倍液、ダントツ水溶剤4,000倍液のいずれかを散布する。	2. ダントツはミツバチ、マルハナバチに影響があるので注意する。 3. ダントツは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
ミナミキイロ アザミウマ	定 植 時	1. アドマイヤー1粒剤を定植時に株当たり1~2gを植穴土壌混和する。	1. アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、アドマイヤーは蚕毒に、マラバッサは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
	生 育 期 間	1. アグロスリン水和剤、スプラサイド水和剤の1,000倍液、マラバッサ乳剤1,500倍液、アドマイヤー水和剤の2,000倍液のいずれかを散布する。	2. 薬剤抵抗性の発現を防止するため、系統の異なる薬剤をローテーション使用する。 3. アドマイヤーはアザミウマ類の登録がある。
ミカンキイロ アザミウマ	生 育 期 間	1. アーデント水和剤1,000倍液、又はコテツフロアブル2,000倍液を散布する。	1. アーデントは蚕毒及び魚毒に、コテツは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. コテツは蚕毒に注意する。
ハダニ類	7月~8月	1. カネマイトフロアブル1,500倍液、アファーム乳剤、コテツフロアブル、ピラニカEWの2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 干ばつ時に、発生が多い。 2. アファームは蚕毒及び魚毒に、コテツ、ピラニカは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. コテツは蚕毒に注意する。